

GRL企画展示

婦人参政権運動にかかわった女性たち



婦人参政権運動の成り立ち

明治維新後、政府は先進諸外国に追いつくために急速に改革を行いましたが、女性に対する改革とはほど遠く、選挙・被選挙権を男子に限定し、教育の男女格差を進めていきました。こうした世の中に疑問を呈し、声をあげていったのが今回で紹介する「婦人参政権運動にかかわった女性たち」です。

1919年には「新婦人協会」が嘆願書の提出等「治安警察法修正」の運動を展開しました。1924年には「婦人参政権獲得既成同盟会（のちの婦選獲得同盟）」が議会への法案の提出、世論を喚起する運動などを行いました。背景には女性解放運動によるイギリスやアメリカの婦人参政権の獲得がありました。日本では女性運動によりいくつかの成果をあげましたが、参政権を獲得するまでにはいたらない状況が続いていました。

第二次世界大戦後の1945年になって、ようやく日本の衆議院議員選挙法が改正され、翌年に行われた衆議院議員選挙では女性が初めて投票し、39人の女性国会議員が誕生しました。今回の企画展示では、婦人参政権運動にかかわった多くの女性たちの中から4人をピックアップしてご紹介します。

～展示内容～

1. 久布白落実
2. 平塚らいてう
3. 河崎なつ
4. 山高しげり

廃娼と女性の地位向上のために尽力した女性
代表作『元始、女性は太陽であった』で知られる
婦人参政権運動の先駆者
教育と婦人運動に一生を捧げた女性
母子保護活動に尽力した婦人運動家



～展示スケジュール～

2025年 3月～5月末頃

GRL

名古屋大学ジェンダー・リサーチ・ライブラリ
Gender Research Library Nagoya University